

所也然論大綱卒不能越範圍適足以知聖功之難測焉矣今視內外系表裏無二治外者必攻諸內故治外較難于治內滄溟李氏亦云宜哉古時醫師兼通內外也斯圖也五綵分色肉理泝血毫亦不遺觀者殆厭穢蓋畫之真者耶乃編爲一冊命之曰解屍編

明和辛卯仲冬

古河

醫學

河口信任

撰

〔淇園文集後篇一〕解剝圖跋

明和八年辛卯冬十二月京城有女子受刑者大府醫官法眼橋陶乞得其屍率其子弟數十人之牢獄院令解剝以觀其臟腑及子宮等狀命畫工菅原誠意者即悉作之圖傳彩爲一卷藏之其家以備醫事之稽攷中島孫信以其與橋陶交善且好圖畫也請命菅原誠意作之副本又請橋法眼書題記其圖亦以藏之其家既又請予作之跋尾孫信之藏圖書固甚富矣然而人惡知其家亦乃能藏斯圖者乎安永甲午冬十二月朔日皆川愿題

〔蘭學事始上〕抑頃は三月三日の夜と覺へたり時の町奉行曲淵甲斐守殿の家士得能萬兵衛といふ男より手紙もて知らせ越せしは明日手醫師何某といへる者千住骨ヶ原にて腑分いたせるよしなり御望あらば彼方へ罷り越れよかしと言文をこしたり兼て同僚小杉玄適といふもの其以前京師の山脇東洋先生の門に遊び彼地に在し時先生の企にて觀臟の事ありしに此男に従ひ行て親しく視たるに古人諸説皆空言にて信じがたき事のみなり上古は九臟と稱せり今五臟六腑の目を分ちたるは後人の杜撰なりなんどいへる事の話もありし其時東洋先生臟志といふ著書をも出給ひたり翁○杉田玄白其書をも見し上の事なればよき折あらば翁も自ら觀臟してよと思ひ居たりし此時和蘭解剖の書も初て手に入し事なれば照し視て何れか其實否を試むべしと喜び一かたならぬ幸の時至れりと彼處へ罷る心にて殊に飛揚せり扱斯る幸を得し事を獨り見るべき事にもあらず朋友の内にも家業に厚き同志の人々へは知らせ遣はし同